

研究主題「生き生きと学び、主体的に取り組む児童の育成」
 ～自己の考えを広げ深める「対話的な学び」を中心とした、
 わくわくがつながる道德教育を目指して～

幸手市立さくら小学校

1 研究主題の設定理由

情報化やグローバル化が進み、AIが飛躍的に発展していく中、多様な価値観を認め、他者と対話し協働しながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められている。

本校は、令和5年度から、幸手市教育委員会・幸手市教育研究協議会の委嘱を受け、国語科を中心とした学力向上にも取り組んでいる。また、令和6年度は、食育指導研究モデル校として食育にも取り組んでいる。道德教育はもちろん、学力向上や食育指導の面からも人との繋がり、自分自身との対話、他者との対話を通して、自分自身の生き方について、主体的に考え、よりよく生きようとする児童を育てたいと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) **仮説1** 国語科でも研究している対話的に学び合う授業を実践すれば、児童が自己を見つめ、道德的価値について自分事として捉え、自分自身を語ることができるようになるだろう。それにより、人との関わりを通し、自己有用感が高まるとともに、よりよい道德性の育成につながるであろう。
- (2) **仮説2** 道德科の学びを核として、さまざまな要素をつなげ道德的価値を意識してカリキュラム・マネジメントを推進すれば、道德教育の質の向上を図ることができるだろう。
- (3) **仮説3** 家庭・地域とさくら小学校の道德教育の目標を含めた方針・方向性を共有する取組の推進をすることで、道德的実践意欲を高め、児童が生き生きと日々学び、何事にも主体的に取り組むことができるであろう。また、幸手中学校と連携することで、9年間の学びにも繋がり、深まりのある道德教育となり、児童の豊かな心を育むことができるだろう。

3 研究の経過

時 期		内 容
4 月		研究組織と本年度の内容確認・全教職員の共通理解 研究主題の決定
5 月		道德日より（とくの日日より）月1発行 研修計画の検討と授業研究会の持ち方、授業者決定
	2 7 日	示範授業 2 年 1 組
	3 1 日	初任者研修研究授業 2 年 2 組
6 月	2 4 日	幸手市年次研修（10年次） 2 年 1 組
7 月	1 日	幸手市年次研修（10年次） こすもす 2 組
	2 日	幸手市年次研修（5年次） 3 年 2 組
	4 日	幸手市年次研修（経験人事異動者） 4 年 2 組
		規律ある態度・道德教育アンケートの実施・分析 道德教育の全体計画の別葉の進捗状況確認
8 月	2 0 日	「匠の技」伝承授業 玉川大学教師教育リサーチセンタ教職サポートルーム客員教授 藤澤 由紀夫 氏
1 1 月	1 5 日	幸手市道德教育推進協議会議 あいさつ運動

〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

12月	2日	指導案検討（教材吟味）中学年ブロック 玉川大学教師教育リサーチセンタ教職サポートルーム客員教授 藤澤 由紀夫 氏
	6日	指導案検討（教材吟味）低学年ブロック 幸手市教育委員会学校教育課 主席指導主事 山本 直人 氏
	12日	指導案検討（教材吟味）高学年ブロック 幸手市教育委員会学校教育課 指導主事 佐久間 聡子 氏
		第2回アンケートの実施・集計
	26日	幸手桜の学びセミナー・幸手市道徳教育推進モデル校合同研修会
	16日	校内道徳授業研究会（高学年） 指導者 埼玉県教育局義務教育指導課指導主事 芳賀 一行 氏 埼玉県教育局東部教育事務所 教育支援担当指導主事 秋山 香奈子 氏 幸手市教育委員会学校教育課指導主事 佐久間 聡子 氏
	22日	6年1組「わたしって何？」（彩の国の道徳『夢に向かって』） 校内道徳授業研究会（低学年） 指導者 幸手市教育委員会学校教育課主席指導主事 山本 直人 氏
	30日	2年1組「水の広場」（学研 みんなのどうとく） 校内道徳授業研究会（中学年） 指導者 玉川大学教師教育リサーチセンタ教職サポートルーム客員教授 藤澤 由紀夫 氏
		3年1組「絵葉書と切手」（学研 みんなのどうとく）
		研究のまとめ（アンケートの分析を含む）
2月		次年度への課題（小・中連携を含む）
3月		

4 研究の内容

(1) 授業研究部を中心に仮説1の検証をブロックごとに行い、指導を共有しながら自身の授業のスキルアップに臨んだ。特に「対話的な学び」を意識し、話し合い（議論する道徳）ができるよう教員が35時間の授業を確実にやりぬらいに迫るように努めた。

① 「彩の国の道徳」については、幸手市の郷土資料とともに、年間に2～3回は取り扱うように計画、実施した。また、家庭用「彩の国の道徳」を道徳日より「とくの日だより」に掲載したり、QRコードを添付し家庭での話題となったりするように発信している。

② 校内研修は国語科との2本立てである。そこで、研究授業だけでなく教育実習生の示範授業や幸手市の年次研修等を生かし、互いの授業を見ることを行った。校内道徳研究授業についても、自身の学年ブロックだけでなく、互いの授業を見て学ぶこと、日常、職員室で話題としたり、教材吟味できたりするようにしている。



〈様式2〉埼玉県道德教育研究推進モデル校 実績報告書

- ③ 「匠の技」伝承事業として、講師の先生に演習及び講義を行っていただいた。演習を通し、授業の基本を改めて学び直す場として、「匠の技」伝承授業を行った。この演習で行った中学年の教材については、2学期に3年生が実際に授業を行い、教材吟味の大切さを実感している。



- (2) 調査統計部を中心にアンケートの集計、分析を行っている。また仮説2に対して重点項目を設定し、道德教育の全体計画の別葉の見直し、カリキュラム・マネジメントを生かし、道德教育の質の向上を図った。

- ① カリキュラム・マネジメント（道德教育の全体計画の別葉）を意識した教育活動（授業外研究部が各行事の内容項目等を整理し、道德コーナーに掲示）
＜行事の例＞



【20周年記念事業】

6年生の総合的な学習の時間と関連付けるとともに、学校の重点目標とは別に本年度、どの行事でも「感謝」「国や郷土を愛する心」「よりよい学校生活」を教員も児童も意識して活動してきた。

【絵手紙教室】

地域にお住まいの中国人の画家の方に野鳥についてお話しいただき、絵手紙の描き方を御指導いただいた。20周年記念式典当日に全校児童の作品を掲示した。「国や郷土を愛する心」「自然愛」「国際理解」等



【モーモースクール】

成牛1頭と子牛2頭が学校に来て子供たちと触れ合った。また、誕生した牛がどうなるのか、一人一人が「命」に向き合う機会とした。また、地域の「お米」についての話を地元のJAの方にお話しいただいた。



「生命尊重」「国や郷土を愛する心」等

- (3) 学年ごとに輪番で、該当学年の道德科の様子を「とくの日だより」で発信し児童の実態を知っていただくとともに家庭へ道德教育の啓発を行っている。仮説3について検証することで地域・家庭の協力を得るきっかけとなった。



幸手市道德推進協議会議の委員、幸手中学校の生徒、本校の6年生でおこなった挨拶運動。

〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

幸手中学校とは、同じプランニングシートを使用することで授業の在り方、深め方を共有し、9年間の学びの繋がりをもたせ、豊かな心を育むことができるようにしている。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- 7月の「規律ある態度」達成目標アンケートについては、6年生は、すべての項目で埼玉県の達成度を上回っている。5年生については、「登校時刻」のみ県の達成率に届かなかった。4年生では、逆に「授業開始時刻」「靴そろえ」「返事」「清掃・美化活動」の4項目しか県を超えることができていない。この結果から学年が上がると自覚が芽生えていることがわかる。教員が意識して指導してきたことが今月のアンケート結果に反映されているか分析し来年度に生かしたい。
- 非認知能力については、5月実施「埼玉県学力・学習状況調査」では、「主体的・対話的で深い学びの実施」に対する数値が4年生3.8（県平均3.9）5年生3.9（県平均3.9）6年生3.9（県平均3.8）であった。「自己効力感」に対する数値が4年生3.8（県平均3.8）5年生3.7（県平均3.6）6年生3.8（県平均3.6）県平均と同程度だった。研修を通し、道徳科だけでなく、国語科の研修も生かし、教員が「対話的な学び」を意識し授業改善を心がけることで、子供たちが学びを広げている様子が見られるようになっていく。
- 教員が道徳教育別葉を活用して、カリキュラム・マネジメントを意識することで、全教育活動で道徳教育を育んでいること、教員も組織で道徳教育を育むことを味わうように変化している。

(2) 課題

- ▲「対話的な学び」について、自己の考えが広げられるような授業展開、授業改善ができるよう、教職員が研究の方向性を絞り、明確にしていく必要がある。
- ▲道徳のアンケートの結果、「道徳の授業が好きですか」「あいさつを交わせるようになりたいか」の2項目に大きな推移は見られなかった。その要因として、授業を重ね、真剣に取り組むことで、「楽しい」よりも「考えて疲れた」の段階を経ているものと思われる。さらに児童の思考をとらえた授業をしていく必要がある。また、保護者については「あいさつ」の項目の値が伸びなかった。実際に見ていることも少ないこともあるので、保護者への授業公開やとくの日だよりを利用し、学校から計画的に発信していく。今後も地域・保護者、そして幸手中学校と連携した道徳教育を通して行う必要がある。
- ▲各ブロックの校内研究授業の結果を職員全体で共有し、学校全体で授業の成果と課題を検証することで、さくら小としてのわくわくにつながる道徳教育・道徳科の授業改善をしていく。
- ▲学力向上（国語科）と道徳教育の相乗効果についても研究も深めていく。